

当別在住のパーカッションプレイヤー

木村 KIMURA MASATO 優斗さん



子どもたちにパーカッションの楽しさを
(10月30日 西コミセン)



体が踊りだすようなアフリカン音楽を

本場ニューヨークから・・・

みんなが一つになれる！それが音楽ですよ。先月、当別町の140年記念がありましたね。スウェーデンの方も、宇和島市の方も大崎市の方もいる前で、関ヒトシさん(ギター)と当別音頭をアレンジして演奏しましたら、みんな踊ってくれました。考えが違っていても、言葉では難しいことも、音楽だと関係ないんですよ！

ドラムに興味を持ったのは高校3年生の時、大学で軽音楽部に入ってJAZZを聞くようになり、気がついたら大学を辞めて、ニューヨークで16年間も音楽に浸かった生活をしてました。ストリートミュージシャンをやりながら、弁当配達、公衆電話修理などバイトもやりました。その頃から、躍動感溢れるラテン音楽にはまり、様々なパーカッションを叩きました。参加して気持ちがいいんです

よ。そしてニューヨークでは一流のミュージシャンと演奏する機会もあるんです。トランペットのドン・チェリー、ギターのパットメセニーともクラブハウスやストリートで共演できました。父親の病気を機に帰ってきましたが、アメリカで受けた音楽の刺激は、たくさんの日本人にも伝えたいなと思いました。現在は、函館で出会った仲間とアフリカンパーカッション・ユニット【N'DANA (ンダナ)】というグループで国内外への演奏に行っています。今年、富山県南砺市なんとしで開かれた世界音楽祭に参加した縁で、来年2月には、アフリカの4カ国で演奏することになりました。

メイドイン当別の音！

当別製ですよ、この太鼓。防風林の立派な木が倒れて、電柱に引っ掛けて伐採作業中のものを譲ってもらったんです。大きなノミで削り

作ったのがこの楽器(写真)でアフリカののものにも負けない音がします。自然に生えているもの、人の手を加えていないものほど、自然の音がしますね。民族楽器の原点は自然ですよ。だから当別にはいい材料がいっぱいあります。ここに来てから自作の楽器が増えました。北海道は魅力的です。四季がはっきりして、秋や春は特に素敵です。チョット疲れたときは、山に充電に行くんです。当別は山菜が豊富で、今秋はきのこが沢山採れました。

音楽は無くても生きていけるんですけど、あることで皆の心が開放されるというか、一つになれるんです。もっとみんなが楽しめるといい。子どもたちにも楽しさを教えたい。子どもたちは目がキラキラしてますからね。(11月17日取材)

木村優斗まさと(京都市出身、平成22年6月より春日町在住)
趣味 山歩き、山菜、きのこ狩り